第７回神崎中学校区適正配置地域協議会　会議要旨

日時：平成２７年５月１２日（火）１９：００～２０：４５
場所：こうざき小学校１階ホール

○出席者　　２９名、欠席者　１名

１. 開会のことば

２. 出席者自己紹介

３. 会長あいさつ

４. 議　　事

（１）大志生木小学校区から

・大志生木小学校区から、統廃合に関する自治会の総会での意見の集約やＰＴＡ総会での通学支援についての協議等について報告があった。

＜主な報告事項＞

【委　　員】　平成２３年５月に小学校の統廃合について大志生木校区区長会の場において教育委員会から説明があった。以来、数回の説明会があり検討を重ねてきた。
その間、大志生木小ＰＴＡも統廃合について協議を重ね、本年１月１１日の保護者会において正式に意見が集約され、２８年４月から統合との保護者会の意向が２月１０日の第５回神崎中学校区適正配置地域協議会で報告された。
これを受け、区長会や運営委員会、総会で協議を重ね、保護者会の意向や現状を理解して、統合への判断や閉校に向けての協議をしていく旨、同じく第５回地域協議会の場で示した。その後、ＰＴＡの方から地域の大切な大志生木小学校ゆえに、議論を重ね、今後の方向性を協議願うという文書もいただいた。
　以上のような経緯から、区長会、運営委員会を経て、最終的に３月２１日の小志生木、４月１９日の大志生木、それぞれの総会において説明し、意見を求め、両区ともほぼ全員の方の同意を得た事を報告する。
　今後は、統合に関わる通学支援等の委員会、及び閉校に関わる跡地利用、並びに閉校記念事業等の委員会を校区において立上げ、地区、ＰＴＡ、学校、教育委員会が一体となって協議を重ね、よりよい方向性を求めていく。

【委　　員】　４月２９日に保護者会を開き、通学支援について協議した。結論としては個々の問題が大きいため、今後教育委員会と話し合いながら、大志生木小学校としての通学の問題をまとめていきたい。
　また、小中一貫教育と小規模特認校制度の話も聞いたが、統合後の方向性について、保護者の意見の集約はできていない。今後何度か保護者会を開き、意見の集約を行いたいと思う。

＜確認事項等＞

大志生木小学校が平成２８年４月にこうざき小学校へ統合となることに伴い、通学支援等の検討

委員会や閉校に係る跡地利用、閉校記念事業等の検討委員会を立上げ、地区、ＰＴＡ、学校、教育委員会が一体となり協議を進めること。

（２）目指すべき方向性について

①小中一貫教育について

・資料（併設型大分市小中一貫教育校　賀来小中学校の例）をもとに説明する。

②神崎中学校区での取り組みについて

・現在神崎中学校区で取り組まれている連携型の小中一貫教育について説明する。

③小規模特認校制度について

・資料（大分市小規模特認校制度のご案内）をもとに事務局より説明する。

＜主な質疑応答＞

【委　員】教育委員会としては小規模特認校制度をどういう形で周知しているのか。

【事務局】この制度で学年途中の転校ということがあるので、小中学校全部に周知をしている。在学小学校長と保護者で相談して転校という事がある。
新１年生については、就学時健診の折に、指定校以外の学校に行くには３つの制度があり、隣接校選択制、学区外就学、小規模特認校制度があるという形で話をしている。１学年１学級の状態を目指してやっているが、児童・生徒数の確保というなかで教育委員会もチラシを市立幼稚園に配付していたが、今は保育所や私立の幼稚園についても出来る限りこういうチラシを配り、まず、制度を知っていただくところからはじめている。最近１年生から入る子どもが多いというのは、市立の幼稚園以外のところも含め、制度の周知が進んだというところもあるかと思う。

【委　員】小規模特認校制度は定員が各学年とも既在籍者を含め１学級以内としているが、具体的には何人ぐらいか。

【事務局】１学年１学級が維持できるくらいの数で考えている。今年は何人ですよという事で具体的に出しているわけではない。

【委　員】未就学児童数の調査が次の会議では出せるのか。

【事務局】これから６年間までのある程度の統計の数は出せる。

【委　員】今の統計の中で、佐賀関地区の全体の昨年度生まれた子どもは１６名ということが判ってきた。２８年度に統合して神崎中校区が一つになって佐賀関地区に小学校が２校という状態になった時に佐賀関校区には６名、こうざき校区には１０名という状況である。おそらくその数年後には統合した後でも複式学級になる可能性がある。そういった時に、この小規模特認校制度を、どのような形で活用していくかという事をそれぞれ校区に持ち帰っていただき、学校で話題にしたり、地域で話題にしたりして、次の協議会までには方向性が出てくるとよいのかなと思う。上戸次小学校で今年の入学生が１５名という話があった。１５名というのは、実は大きな意味をもつ数字で、１５名いれば単独の学級が確保できる。隣同士の学年で複式になることはない。１年生は単独で学級編制されるが、他の学年でも少なくとも１５名いれば１学年１学級は確保できる。今後児童数が減少していくという中で、さらに魅力ある学校になって他の校区からも選んで来てもらえる状況を創り出していくという事が地域全体の活性化に繋がるのではないか。

【委　員】小規模特認校制度を導入した上で、小中一貫教育もあるのではないか、子どもが増えないと小中一貫教育もあやふやなまま終わるというふうに思うのだが。
小規模特認校制度を導入した上で、魅力ある学校作りというか、特別校というような考え方を持ちたい。自然はあるということで確かにいいと思うが、それよりもここに来ることで、スポーツが盛んな所なので、いろんな事を学びたい、例えば英語の授業は同じ時間になっているかもしれないが、英会話の先生だとか特別に授業ができるだとか、放課後にできるだとかいうような考え方で魅力あるものになれば小規模特認校として子どもも増えるのではないかなと思う。今のままだと何が魅力あるというのが見えないので、できれば特認校というのが、特別校であって尚且つその上でそのまま小中一貫教育に移行するという事はできないのか、２つやるという事はできないのか。

【委　員】小中一貫教育と小規模特認校は全く別物だから、両方採り入れてもかまわない。
ただ、小規模特認校制度を導入するにしても何かアピールポイントが必要である。部活の事、英語の事とかいろんなアピールポイントがある中で、選んでもらえる学校になりやすいというのは確かだと思う。

【委　員】小中一貫教育にそこまで魅力を感じてくれる保護者がそんなに多いものなのか。説明を聞いて、いいなと思うが、実際に賀来小中学校に行っている友人に話を聞いてみても、ここしか知らないのでこういうものかと思うと聞いて、小中一貫教育になったからといってここを選んでもらえるかと言えば、賀来小中学校ほど人数で充実していないし、先生の人数もそんなに割いてくれないだろうから、ここでやったからといって賀来ほどうまくいくのかなと疑問がある。

【委　員】併設型の小中一貫教育になれば何もかもうまくいくという事ではなく、何か他の学校との違いを作らないと特色にならない。賀来に行ってみたらわかるが、校舎は古い、でも人が増えているというのは、これがアピールポイントになるのだろうと思っている。
小中一貫教育でなぜ併設型と連携型とがあるかといえば、今このまま統合して１校になった時に、こうざき小と神崎中になった時に、別に併設型にしようが連携型にしようが大きく変わることはない。ただ一つ最大の違いがあるのは校長が一人になる。併設型であれば、どちらかの校舎に校長が居て兼ねる形、その分人が減るのではなく、その分は教諭の先生が増える。授業する人が増えるので、例えばそれが英語の教師であれば、英語の先生が小学校に行って授業ができるとか、賀来も校長が減った分は教諭が増えるので余分に授業することができるので、小学校の段階から英語教育できるという事になる。これもアピールポイントになる。そういう形で寄せ集めることで、それぞれ利点をカバーしあえるということで、一つの学校になるのはそういうメリットがある。

＜確認事項等＞

・次回も引き続き目指すべき方向性について協議すること。

（３）その他

第８回地域協議会の開催について、事務局より説明した。

＜確認事項等＞

・第８回地域協議会を６月２３日（火）の１９時から、こうざき小学校１階ホールで行うこと。

４．閉会のことば